

私の罪

三十年近く我が家の庭の片隅にいた林檎の木が昨年息を引き取った。

来た頃は、生き生きとしてピンクの花が咲き、小さくても実をつけて歌姫のように輝いていた。そのうちに枝がいつぱい伸びて大木になったが、いつの間にか花が咲かなくなった。数年して葉に茶色い斑点が始め、木全体が白い綿をいつぱいつけたようなウドンコ病になった。

そんな状態が三年程続いたのち、何も言わずに枯木になってしまった。

今、私は枯木姿の林檎の木と向き合っている。

林檎の木が細かい声で「貴方は私がどんなに苦しんでも何もしてくれなかったわね」

「私を愛していなかったのね」と言った。

私は一言もなかった。

木は土から命をもらっているのに、土が一番大切だということは頭ではよく解っていたのに何もしなかった。命を守ることは、その時を逃したらそれですべてが無になることも知っていながらだ。

私はもう一度林檎の木に向かって

「ごめんね。これから自分にきびしい人間として頑張るから許してね」

と言いながら、合掌。

信州飯田ふるさと会連合会 会長 平田 達

〒1101100七六

東京都千代田区五番町一番地九

MG市ヶ谷ビルディング6階

平田法律事務所

TEL 03-3322-0200

FAX 03-3322-1161

